

山形県社会福祉事業団広報紙

# かざぐるま

ひと 未来 輝いて

2010 March

NO. 87



大寿荘利用者作品

## 特集

山形県障がい福祉施設受託拡大事業の取り組み

## トピックス

山形県地域生活定着支援センターオープン

大寿荘増改築工事

寿泉荘スプリンクラー設置（スプリンクラー工事を経て）

## 報告

セクシュアル・ハラスメント防止への取り組みについて

全国福祉QC発表大会

研究推進事業実践研究・福祉QCの取り組み

## レキシコン

障がい者制度改革と障害者総合福祉法

モンテディオ山形エコスタッフ活動



# 山形県障がい福祉施設受注拡大事業始まる!

## 村山地域編

村山障害者就業・生活支援センター（ジョブサポートばる） 主任援助員 齋藤 卓也

平成20年度山形県内全事業所の工賃平均額は、13,692円。障害者自立支援法による利用者側での負担が増したということもあり、国や県は、工賃倍増計画を策定。各福祉事業所は、工賃アップを目指すこととなりました。しかし、不況の影響で障がい者の仕事量が激減。福祉事業所のスタッフは日々の業務の中で、工賃アップの為の受注拡大をする営業活動にまで手を回す余裕が無いといった状況にありました。

そうした中、今年度より県内3か所の障害者就業・生活支援センターにそれぞれ4人の就労支援スタッフ（就労支援助手）が配置されました。就労支援スタッフは、管内の全事業所の代表としての営業マンとなり、企業や公的機関から仕事を発注してもらうよう営業活動を行ったり、バザー等での販売会において手伝いを行ったりする仕事をしています。活動の中心が山形市内に多かったことで、事業

所間で偏りが生じてしまった反省もありましたが、来年度以降も福祉事業所の代表として活動していき、より一層の企業と福祉事業所との架け橋になれるよう活動したいと考えています。



バザーの手伝い

「障がい者が農業を応援します。」県障がい福祉課と農業普及課がタッグを組み始めた事業が、県内の障害者就業・生活支援センターの窓口でスタートしました。農家より依頼があれば、就労支援スタッフが訪問し、仕事の中身について調査し県内の福祉事業所へ紹介するというものです。（農家と事業所を仲人する仕事といえば分かりやすいですよ。）



紅花摘み作業

山形県と言えば言わずと知れた農業県。近年では、農業に従事する後継者不足と高齢化が進み、日本の食糧自給率が低いこととなっている要因の一つだと言われています。

そこで今回は、農業の担い手として障がい者の方達が剪定後の枝拾い、果実取り、畑の石拾い、雑草刈り取り、堆肥運び等のお手伝いができることを農協さん等を通じ、周知してもらうことで仕事を農家から受注し、事業所へ紹介していくこととなったのです。

昨年からお手伝いに行っていた紅花農家に今夏からの農家を加え、剪定後の枝広いや草取り作業も依頼がありました。農家の方からは、「最初はどんな方達なのか賃金ほどの位で妥当なのか、分からないことが多かったが、一生懸命働いてくれて助かった。またお願いしたい。」と話がありました。一方の福祉事業所側は、「外で働くことで気分転換にもなるし、現金支給がうれしい。」と話をしてくれます。作業を通じ、障がいへの理解が広まり、働く場が少しでも多くなることで、障がい者も農村も皆元気になればと思っています。

この事業は、ふるさと雇用再生特別交付金に係る事業で、平成21年度から平成23年度までの3か年事業です。「山形県工賃倍増5か年計画」に定める目標工賃達成のため、新たな市場開拓などを担う就労支援助手を配置する事業を、県から委託を受け、当法人が運営する障害者就業・生活支援センター 3か所で実施しています。各センターでは、試行錯誤ですが、工夫を凝らし、徐々にその実績が見えてきました。各センターでの取組みを紹介します。

## 置賜地域編

置賜障害者就業・生活支援センター 主査 白岩 守

### ①授産・就労系事業所の工賃アップに向けた取り組み

作業内容、自主製品等の生産能力、労役提供の可否等についてのデータベース作成のため、管内の就労系福祉サービス事業所を訪問させていただきました。ほとんどの事業所から作業面や販売会において人手が不足している、自主製品の開発・生産に苦勞しているという話がありました。

それを受けて、4つの事業所に就労支援スタッフを曜日ごとに研修及び作業補助として派遣し、また各事業所や、「置賜総合支庁 ふれあいショップ愛べ」販売会の補助を行いました。また、就労継続支援B型事業所で制作した「さをり織り」を使い専修学校の協力のもと、クマのぬいぐるみが商品化されることになりました。各事業所の生産活動が活発化していくことが工賃アップにつながると期待されています。これからも農業支援や共同受注体制づくりに力を入れていきます。

### ②企業等に対する働きかけ

今年度については、実際に自治体や企業への営業活動を行うまでには至りませんでした。

職場開拓に関しては本来の障害者就業・生活支援センター

業務としても積極的に取り組むべき業務ではありましたが、スタッフに対するスーパーバイズが必要な中、福祉サービス事業所に対する働きかけを中心に取り組みました。

1月に企業に対する障がい者雇用に関するアンケート調査を「置賜地域障がい者就労活動活性化協議会」として実施し、調査結果の集約などをスタッフの業務として計画的に進めることで、来年度以降になるかとは思われますが、実習の依頼や雇用に関わる職場開拓に繋げていければと考えます。本事業については、平成21年度からの3年間の事業ではありますが、1年ごとの成果を上げることは難しく、障害者就業・生活支援センター事業にも反映できるような形で障がい者の働く機会や場所を拡大していきたいと考えます。



1月16日山形新聞掲載

## 庄内地域編

庄内障害者就業・生活支援センター（サポートセンターかでる） 就労支援スタッフ 矢口 建治

今年の4月に就労支援スタッフとしてお世話になり、もうすぐ1年になるとしています。我々、庄内の支援スタッフ4人は、福祉の分野ではまったくの素人で、最初のうちは不安や戸惑いで一杯でした。その中で、前半での研修会や施設での研修、そして利用者さんとの触れ合いなどいろいろな機会を通して福祉事業への理解や情熱を多少なりとも培うことができたと思っています。

障がい者福祉施設サービス事業所のデータベース化を作成後、12月から本来の仕事である就労支援活動に着手し、



障がい者の新たな職場開拓と作業所の工賃アップを目的とし、関係機関や各施設との連携のも

とに、2組に別れ各企業へ飛び込みで訪問しました。訪問先の企業は、異口同音で現在の雇用状況を反映し、厳しい答えしか返ってこないのが現状です。しかし、その中でダイレクトメールの作成や電子部品の仕分け作業など、生産品の受託を依頼され契約に至った所や施設からの希望があれば菓子作りの技術を提供するという事業主。また法定雇用率に応じて、採用に向け所内で調整することを確約していただいた老人施設や製造業を営む会社など200か所近くの事業所を訪問し、1割にも満たない成果ですが、理解を示してくれるところもでてきました。この様に理解し協力をしてくれる人々にお会いすると晴れ晴れとした気持ちになり、障がい者の就労や工賃アップに確実に繋げるようにしたいという思いが湧いてきます。これからの残された期間、一件でも多く訪問し、障がい者雇用への理解と周知を念頭において活動していきたいと思っています。



トピックス

## 山形県地域生活定着支援センターオープン

平成22年1月より、山形県地域生活定着支援センターが開設され、その運営を当事業団が担うことになりました。今回、その概要をご紹介します。

### 地域生活定着支援センターとは

刑務所などの矯正施設を出所する方の中には、一人では自立した生活を送ることができず、福祉サービス等の支援を必要とする方がおります。しかし、この支援が十分でないために、結果的に罪を重ねることとなり、再び矯正施設へ入所する方がいるのです。

このような状況を受け、厚生労働省では平成21年度から各都道府県に「地域生活定着支援センター」を整備し、司法と福祉の連携により支援を行う「地域生活定着支援事業」を創設したところです。

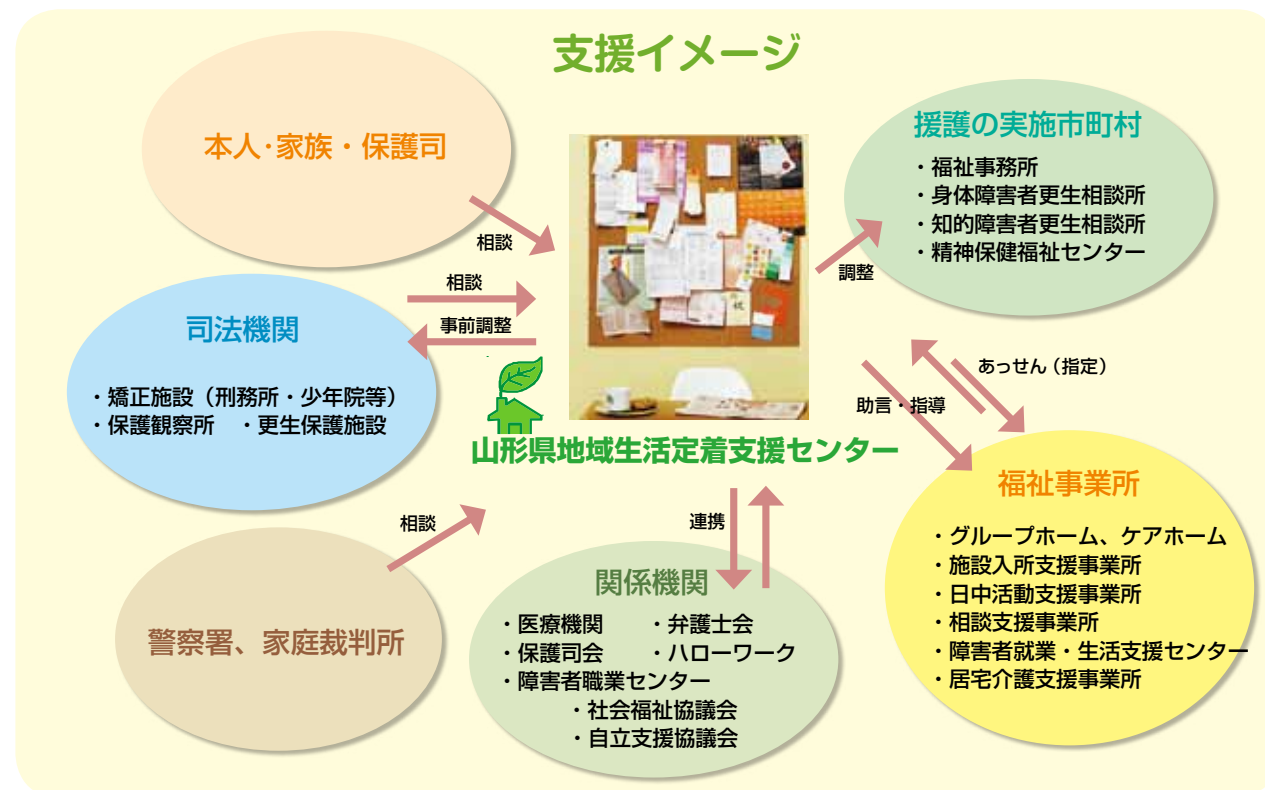
(センター設置：平成21年3月1日現在で11箇所)

### 支援概要

山形保護観察所及び県外の地域生活定着支援センターから協力依頼のあった方について、山形県地域生活定着支援センター職員が受け入れ施設のあっせんや福祉サービス利用に係る申請書の提出など、福祉サービスを利用するために必要となる手続きを行います。また、対象者を受け入れた施設等に対する必要な助言、福祉サービス等の利用に関するご本人又は、その関係者からの相談に対応した助言などを行います。

支援の対象は、刑務所などへ入所中の高齢者、または障がいのある方で、出所後の受け入れ先（住居など）がなく、保護観察所から協力依頼があった方となります。(指定相談支援事業所とは違って、支援対象者は特定されることとなります。)

なお、現在所長1人、相談員3人の職員(兼務)でセンター運営を行っていますが、平成22年度は所長1人(専任)、相談員2人(専任)の他、兼務の相談員2人の合計5人体制で実施します。



問い合わせ先／電話：023-681-5885 FAX：023-682-0211

トピックス

## 大寿荘増改築工事

特別養護老人ホーム 大寿荘 事務長 五十嵐 麻紀



12月21日竣工式

昨年、6月から11月までの約半年間にわたり、大寿荘の増改築工事が行われました。中央棟に新しいホールと、ショート用個室3部屋が増築され、東棟の洗面所、トイレ、クリーンルームが改修により新しくなりました。中央棟のホールは、食事場所や様々なアクティブ活動に利用されています。大きな窓からは、中庭が眺められ、日当たりも良く、利用者もテレビを見てくつろがれたり、お茶を飲まれたりと、ゆったりとした時間を過ごされています。窓からは、スロープで中庭に出られるようになっており、「暖かくなったら、散歩に出かけられるね。」と楽しみにされています。

東棟の洗面所とトイレも、明るく広々となり、とても使いやすくなったと、利用者の方々はもちろん、職員も喜んでます。洗面所には洗髪用洗面台もつ



ホールでの食事風景

いており、出張理容が来た時にとっても便利です。

新しいショート部屋は、広々としてとても過ごしやすく、ショート利用者の方々にも大変喜ばれています。大きくとった窓からは、中庭が見えて四季折々の景色が楽しめると思われま

す。完成後の12月には、ささやかながら竣工式も執り行い、みなでお茶とお菓子でお祝いをしました。

半年間の工事期間中は、居室移動などで利用者にはご不便な生活となり、大変ご迷惑をおかけしましたが、新しいホールで、笑顔で過ごされる利用者の方々を見ると、私達職員も笑顔になり、もっともっと「笑顔のある暮らし」を提供できるよう、日々頑張ろうと思います。

トピックス

## スプリンクラーの工事を経て

特別養護老人ホーム 寿泉荘 厨房

平成21年4月に消防法改正の施行により、平成23年までにスプリンクラーの設置が義務付けられました。このようなことから、県の補助事業を受けスプリンクラーを設置しました。

設置工事にあたり、利用者の方々の生活環境や安全に配慮することはもとより、利用者の方が一番楽しみにしている食事提供については、大変な苦勞と工夫がありました。その食事提供について紹介します。

開設以来、厨房の機能が全面的にストップすることが初めてであったため、とても不安はありましたが、災害時の予行練習のつもりで対応していこうと話し合い、ミキサー・刻み食・普通食を調理できる業者と献立や食材、調理方法、分量など細かく綿密な打合せを行いました。また、食器については使い捨て容器を使用し、粥ミキサーと味噌汁のとりみは加減がむずかしいとのことで荘で作ることとし、当日を迎えました。食材を盛り付ける場所に運んだり、借用したガスコンロを運んだり少し勝手が違い、

とまどうこともありましたが、何とか時間通りに食事を提供することができ安心したところです。食事の内容についても利用者から好評を得、使い捨て食器についてもクレームなくスムーズに進みました。

今回の工事で感じたことは、衛生面も考慮し、実施する時は工事側との十分な打合せが大変重要だということです。また、業者の納入時間が決められているため、それに合わせた職員の勤務時間と職員数を考慮しなければならない事でした。貴重な経験ができたと思います。



食事提供の一例



報告

## セクシュアル・ハラスメント防止への取り組みについて

「セクシュアル・ハラスメント」への対応は、様々な職場における共通の課題として、社会的にも関心を集めています。

事業団では、平成11年8月に「職場におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する指針」及び「セクシュアル・ハラスメントに関する相談事務取扱要領」を制定し、その防止に努めてきましたが、より実効性のあるものとするために、平成21年12月1日に「山形県社会福祉事業団におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する要綱」を新たに制定、施行しました。

この要綱では、対策の総括責任者を事務局長に充てるとともに、所属長や職員の責務も定めています。また、防止および排除に向けて重要な役割を担う人として、各施設（事業所）に相談員を配置することになっています。相談員は、各所属職員の推薦を受け施設長が指名（男女各1人）することになりますが、

今回の研修は、この相談員を対象に開催されました。相談員に求められるものや役割、そして相談対応の方法の実際などについて、21世紀職業財団山形事務所から特定社会保険労務士の高橋文子先生を派遣いただき、講義を受けました。

今後は管理者を含め、継続的な研修を実施するとともに、パワーハラスメントに対する対応も視野に入れ、取り組んでいきたいと考えています。



報告

## 第20回「福祉QC」全国大会に参加して

こだま寮QCサークル「ビフォー・アフター5」リーダー 白石 真

まずは、昨年の12月8日～9日にかけて当サークルメンバー3人が東京の全社協ビルで行われました全国大会に参加させて頂き感謝申し上げます。

そこでの感想を述べますと、全国大会のレベル及び参加各施設の熱意の高さもありますが、視覚的効果を高めたパワーポイントの使い方やスピーチ等の発表の仕方は勿論のこと、特にQCストーリーに加えQC手法でのテクニカル面でだいぶ離されているという印象を持ちました。

また、見学だけの参加者も多く、その方達からの話では月に何度か福祉QCの講師を招き学習をしているとのことでした。当初から「福祉QC」には賛否両論がありましたが、結果、施設間や地域間で差が出ている現状も見えます。

本来、福祉QC活動は「業務改善」に対してテーマを絞り具体的な改善活動を指向すべきであり、施設特性(種別)も考慮が必要なようです。私達の発表は参加賞でした。テーマは業務改善という具体性に



欠ける側面もありますが、私達の余暇活動支援としての人間関係改善をテーマとした活動は、余暇の充実にも対人スキルが必要だとい

うことです。相手への配慮や関心をどのように示すかであり、「相手を誉める」ということはその方法の一つでもあります。参加利用も、コミュニケーションを含めたその方法には関心が高く、回を増すごとに、利用者自身の期待感や継続を求める希望を強く感じました。

その理由として、豊田工房という施設生活の場を離れた「空間」の効用であり、応募ということで、人間関係というテーマに関心を持った比較的若い世代の利用者が参集し、生活の場から自発的にテーマを見つけ、参加者が共通に学習できるというところにもあるようです。

最後に、福祉QCを含む実践報告活動は、業務分担や勤務時間内でどれだけ活動時間を持てるかにより縛られる側面もありますが、まずは同じ目的に向かって進もうとするメンバーに恵まれることであり、更にその活動に対して協力してくれる寮の職員の存在があって成り立つものでもあります。利用者の方、皆さんの、職員の皆さん、ご協力どうも有り難うございました。



報告

## 平成21年度研究推進事業 実践報告・福祉QCの取り組み



事業所名	研究種類	取組年数	テーマ
特別養護老人ホーム 松濤荘	実践報告	単年	Let's communication!! ～みんなで大きな輪を作ろう～
特別養護老人ホーム 寿泉荘	福祉QC	単年	遊びこそリハビリテーション
特別養護老人ホーム 福寿荘	実践報告	単年	「なぜ増える!ヒヤリ・ハット」～リスクマネジメント委員会の取り組み～
特別養護老人ホーム 大寿荘	実践報告	2年	ターミナルケアについて (1/2年)
救護施設 みやま荘	実践報告	2年	心理教育における実践研究について ～障がいと向き合う利用者を支える～ (2/2年)
	福祉QC	単年	布団を押し入れに入れよう
救護施設 泉荘	実践報告	2年	泉荘の食事サービス(選択メニュー)について (2/2年)
身体障害者授産施設 鶴峰園	実践報告	単年	鶴峰園における栄養ケアマネジメント導入への取り組み
身体障害者通所授産施設 ワークショップ明星園	実践報告	2年	工賃倍増計画と当施設の現状② ～その取り組みを通して見えてきたこと～ (2/2年)
知的障害者更生施設 吹浦荘	福祉QC	単年	より快適な生活を目指して ～住環境整備～
知的障害者更生施設 慈丘園	実践報告	単年	地域移行に向けた支援 ～あたりまえの日常を取り戻すためのOさんへのアプローチ～
知的障害者授産施設 希望が丘 あさひ寮	実践報告	単年	いかにして誤薬を防止するか ～サービス評価の指摘事項改善に向けて～
知的障害者授産施設 希望が丘 こだま寮	福祉QC	単年	余暇支援の充実について ～地域に出て余暇を楽しみたい～
知的障害者更生施設 希望が丘 しらさぎ寮	福祉QC	単年	伝達を確実にしよう
知的障害者更生施設 希望が丘 ひめゆり寮	実践報告	3年	「イエローリンカード」の取り組み ～ひめゆり寮職員は変わったか?～ (3/3年)
知的障害者更生施設 希望が丘 まつのみ寮	実践報告	単年	事故の再発防止に向けて (ヒヤリ・ハットの検証より)
希望が丘 診療所	実践報告	3年	希望が丘における転倒の原因究明について (第2報)

### 平成21年度福祉実践報告会

平成22年2月25日(木)山形市内の山形県産業創造支援センターに於いて「平成21年度山形県社会福祉事業団施設実践報告会」が開催されました。上記より6施設が、今年度の実践報告および福祉QCの取り組みについて発表しました。出席者からは、「所属施設の課題解決に参考にしたい」との感想がありました。

## レキシコン

【レキシコン】  
lexicon: ギリシャ語・ラテン語・ヘブライ語の辞典。

### 障がい者制度改革と障害者総合福祉法

平成21年12月に障がい者制度改革推進本部が設置された。障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備や、障がい者に係る制度の集中的な改革を実施することがねらいであり、当面5年間をその検討期間としている。

特に大きな議題は、①障害者基本法の抜本的改正②障害者自立支援法に替わる障害者総合福祉法(仮称)③障害者差別禁止法制であり、障がい者制度改革推進会議が月2回のペースで開催されており、改革の骨格まとめは、今年夏をめどとしている。

改革推進会議のメンバー24人のうち過半数が障がい当事者又は家族であり、当事者が政策立案段階からかわる「当事者参画」で実施されている。

これまでの議論の中では、障がいの定義は包括的なものとし、障がい者を権利の主体とする方向性で一致している。このことは、障がい種別や年齢別の日本の現行法制度は、国際的にも稀であり、縦割り福祉法の限界もあり、二一

の普遍化や多様化に対応しきれない現状への反省でもある。

また、障害者総合福祉法では、地域生活の権利を明記することや、地域生活移行プログラムの法定化、地域生活支援の基盤整備や自立の概念等も議論されており、総合福祉法の検討に絞った部会を、3月中に設置することとしている。

この背景には、1月7日に国(厚生労働省)と障害者自立支援法違憲訴訟原告団・弁護団との基本合意があり、障害者自立支援法制定の総括と反省も踏まえ、大きな意義と意味があると考えられる。

今後、障害者基本法、差別禁止法や虐待防止法、総合福祉法等の見直しのほか、教育や雇用、交通と情報アクセス、精神医療、所得保障など関連領域のあり方も検討される予定である。障害者自立支援法の制度矛盾や反省を教訓に、また、縦割り法制を一元化することにより、障がい者制度の包括的な制度改革を期待したい。



# がんばれ!! モンテディオ山形



©SPORTS YAMAGATA 21

## 「モンテディオ山形エコスタッフクラブ」の活動

サッカーJ1・モンテディオ山形のホームゲームについて、村山地域にある6か所の福祉事業所が共同でゴミ処理業務の共同受注を始めました。共同受注を始めたのは、村山地域にある知的・精神障害がいの事業所で「モンテディオ山形エコスタッフクラブ」を組織。ホームゲームでの18試合スタジアム内のゴミ収集と分別、運搬を行う作業です。スタッフは、小雪が降る寒い日も夏の暑い日も用意したモンテエコスタッフのユニフォームを着用し、モンテのスタッフの一員だという気持ちを持ちながら1年間選手と同じように頑張りました。

スタッフの1年間を通して「最初はゴミ収集・分別・運搬を行う作業（数万人の観客分）は、大変かなと思いましたが、観客の皆様の方々の応援があり、考えているよりスムーズにできたと思います。それにしても観客サポーターの多さにビックリさせられました。」と感想がありました。今シーズンも私たちは、モンテと共に頑張ります。スタジアムに是非足を運んで、チームの応援もよろしくをお願いします！



©SPORTS YAMAGATA 21

## チャリティーシート (小林亮シート)に感謝!!

モンテディオ山形DF小林亮選手から、シーズンシート5席分（ホームゲーム毎）がプレゼントされることとなりました。小林選手は、2009シーズン加入した選手で以前在籍していた柏レイソルや大分トリニータでは、選手たちが老人ホーム訪問やサイン会を開催する等積極的な取り組みをしてきたことを、現チームでも取り組めないかと考え、障がい者の方々の手助けになったり、活力を与えればと自費でホームゲーム5席を購入し、エコスタッフの窓口でもあった「ジョブサポートぱる」を通じ、県内の福祉事業所や特別支援学校を中心に招待することとなったのです。このシートは「こぼ亮シート」と呼ばれ、7学校3福祉事業所の方達国内最高峰のサッカーゲームを間近に観戦できるとあって大人気となりました。6校と4つの事業所の方が招待され、「皆で楽しく盛り上がり、席も良い所で観戦できて満足でした。」と感謝の言葉が多く寄せられました。ただ残念なことにシーズン途中で大きな怪我を負ってしまいピッチを去った小林選手。心配しているファンが数多くいます。一日も早い復帰を願っています。

源泉かけ流しの温泉で  
ゆっつりのんびり疲れを癒すこは湯の里

# 寿海荘

手作り料理にきつと満足!

1泊2食付き

老人(60歳以上)・  
母子(寡婦)・身障者の方

5,210(税込)円

◎基本料金は通年同じです。

◎新しいマイクロバスでの送迎等のご相談を承ります。



新しいマイクロバス



3月17日マイクロバス納車式

HPも発信中

寿海荘ホームページアドレス <http://www.jyukaiso.jp/>

山形県福祉休養ホーム  
あつみ温泉 寿海荘



リハビリ講座



開設記念

〈上半期のイベント〉

実施日	イベント	講師	企画バック
4月中旬 4月15日 4月22日	桜のライトアップ 民謡発表 ギター弾語演歌楽講座	佐藤 朝吉氏GP 大戸 眞澄氏	
5月20日	第1回カラオケ	高橋 宣則氏	月山新道の四季バック 5/17～5/21(月～金)
6月10日 6月17日	民謡体験 音楽療法実践講座	普話柳引ボランティア 佐藤 文子氏	月山新道の四季バック 6/14～6/18(月～金) 日帰りカラオケは6月中大広間全面
7月1日 7月22日	開設記念 なごみの会1	フラダンスボランティア 高橋 公子氏他	開設記念にちなんだバック 6/28～7/2(月～金) ※イベントは7/1夕食時のみです。
8月5日 8月26日	健康運動 介護教室	富樫 伸氏 温寿荘職員	健康運動にちなんだバック 8/2～8/6(月～金) ※健康運動講座は8/5(木) 15:30～14:45のみ
9月24日	舞踊上演	舞踏友好会	月山新道の四季バック 9/6～9/10(月～金)

※企画バックご利用の場合は5,000円(税込)となります。

※お申込み時5千円バックと申込下さい。 ※3名様以上

ご意見・苦情はメール [info@jyukaiso.jp](mailto:info@jyukaiso.jp)までお願い致します。

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里8-1

TEL:0235-43-4173